

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Asian Frontier4号棟	階数	地上2階
建設地	福岡県北九州市八幡東区大字前田	構造	SRC造
用途地域	工業専用地域、防火指定無し	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分VI	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年4月 予定	評価の実施日	2011年6月20日
敷地面積	30,868 m ²	作成者	清水 聡
建築面積	1,494 m ²	確認日	
延床面積	3,001 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 98%
③上記+②以外のオンサイト手法 98%
④上記+オフサイト手法 98%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.9	Q3のスコア = 2.4
音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気環境: N.A.	機能性: N.A. 耐用性・信頼性: 3.5 対応性・更新性: 4.2	生物環境: 1.0 まちなみ・景観: 3.0 地域性・アメニティ: 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.0	LR2のスコア = 2.7	LR3のスコア = 2.9
建物の熱負荷: N.A. 自然エネルギー: 3.0 設備システム効率化: 3.2 効率的運用: 3.0	水資源保護: 3.0 非再生材料の使用削減: 2.5 汚染物質回避: 3.2	地球温暖化への配慮: 3.0 地域環境への配慮: 2.8 周辺環境への配慮: 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地形状に合わせて将来サーバー棟を、順次拡張可能な配置計画。 高負荷容量のデータセンターに、外気を導入することによって、省エネルギー化を図った計画。	サーバー室は、コンピューターからの高負荷発熱に対して、温度環境を一定に維持する信頼性の高い設備システムとした。外部からの熱負荷抑制のための、バルコニー・縦ルーバーは省エネルギー化を図る、外気取入れ
Q1 室内環境 居室が無いため、評価該当無し。	Q2 サービス性能 サーバー室はフリーアクセスフロアー (H=1000) を採用。高負荷に対応した電源設備及び空調設備。サーバー機能を停止させない信頼性の高い設備システム。重要設備の二重化 (発電機、UPS) の設置。サーバー設備の
Q3 室外環境 (敷地内) 建物の高さを抑え、将来の拡張計画を見据えた秩序ある全体配置計画。	LR1 エネルギー 積極的に外気を導入することによって、省エネルギー化を図った。
LR2 資源・マテリアル 環境負荷の少ない材料の積極的な採用。躯体鉄骨に電炉鋼を採用。N2消火を採用。	LR3 敷地外環境 広告塔無し。外壁は光を反射しないコンクリート打ち出し。構内道路、荷捌きスペースを設け、周辺への交通負荷低減を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい